

# 生存科学研究ニュース

Vol. 36, No.1

2021.4 発行

発行 公益財団法人 生存科学研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

tel: 03-3563-3518 fax: 03-3567-3608 email: office@seizon.or.jp http://seizon.umin.jp

## 「生存科学と新型コロナウイルス感染症」 常務理事 高木 廣文



新年度を迎え、本来ならば入学式や入社式などで、社会全体が活気あふれる季節のはずですが、昨年から続く新型コロナウイルス感染症のために、花見も宴会禁止となっております。考えてみると、このような日本の

みならず全世界規模でのパンデミックの状況は、本研究所にとっては「生存科学とは何か」を問う、よい機会なのではないかと私には思えます。

私の学生時代では、感染症による死亡は減少し、非特異的疾患である悪性新生物や糖尿病、循環器系の疾患など、いわゆる生活習慣病(当時は「成人病」と言われた)の研究が疫学的にも重要な課題でした。そのため聖路加看護大学(当時)の日野原重明先生を中心とした生活習慣調査などを、私も長らく手伝ったものでした。現在でも、生活習慣病の予防対策が完全に可能になったわけではありません。しかし、今の高齢者の最も恐れていることは、新型コロナウイルスへの感染ではないでしょうか。

感染症は、途上国の問題だと考えられていたのに、結核などの再興感染症や、SARS(重症急性呼吸器症候群)や MERS(中東呼吸器症候群)のようにコロナウイルスによる新興感染症の問題が、途上国のみならず全世界での脅威になってきたのは、つい最近のことです。HIV/AIDS の問題も解決していないのに、この新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、瞬く間に全世界に蔓延し、日本でもなんとか自主努力によって感染爆発にならずに済んでいるといえる状況ではないかと思えます。ワクチンはすでに開発されていますが、先進国のみで接種が進んでいる状況で

す。残念ながら、日本の接種状況は遅々として進まず、高齢者である私の番はちゃんと回ってくるのか心配しています。全世界の国々で集団免疫がそれぞれ確立し、自由に旅行できる日は果たしてくるのだろうかとも心配しています。

新型コロナウイルス感染症による死亡率は、現在の世界の状況では 2%程度だろうと思われまます。それでも感染者数が 1 億人いれば 2 百万人、10 億人いれば 2 千万人が死亡することになります。こう考えると、ただの風邪のように新型コロナウイルス感染症を言っている人は、人類の存亡が全く分かっていない愚か者ということになるでしょう。

生存科学が人類の生存のための科学だとすれば、人類滅亡のシナリオの一つとして、新興感染症のパンデミックによる絶滅も考えておく必要があります。今回は、ワクチン開発がとりあえず間に合ったようですし、それなりの対処療法で切り抜けているように思われます。しかし、これからも新たな感染症は出現するはずですし、ワクチン開発や治療法が間に合わないかもしれません。日本人の国民性なのか、マスク着用や手洗いなどを真面目に実行しているようなので、ワクチン接種が先進国では最低辺でも、とくに暴動が起こるわけでもなく、そのうち何とかかなるといった雰囲気です。呑気に政府を信頼して待っているのが不思議な気がします。これまで大丈夫だったから、今回も平気だろうと思うのは、大地震などの災害時でも同じようなので、単純な教育だけでは克服できない人間の心理なのかもしれないと考えています。

今回は、何とか人類は生き延びることができそうですが、新種のウイルスがいつどこかで出現するかは、全く予想ができないのだから、神頼みや国民頼みではない人類生存のための科学的対策の基礎ぐらいは考えておく必要があるのではないのでしょうか。

## シンポジウム

「患者安全への提言は生かされるか」開催

研究責任者 隈本 邦彦



2021年3月13日(土)13:00-17:30、令和2年度助成研究事業としてシンポジウム「患者安全への提言は生かされるか」を奈良県立病院機構・医療専門職教育研修センターで開催しました。当日は会場で25人、

オンラインで約400人の方に参加をいただきました。

このシンポジウムは、群馬大学医学部附属病院で1人の外科医が行った手術後に比較的早期に患者さん18人が亡くなっていたという一連の医療事故の事故調査を行ったメンバー6人(私もその1人)が企画したものです。

第1部では、それぞれの委員が報告書に込めた思いを講演、第2部では関西地区の医師やジャーナリストの方に、この報告書をどう受け止めたか、医療現場への影響はどうか等についてご報告をいただきました。

18人もの患者の死亡の背景に何があったのかを総合的に分析したこの事故調査は、患者安全管理や医療事故調査に詳しい医師2人、看護師、弁護士に、患者の権利擁護の活動を続けている市民2人が加わる、他の事故調査では類を見ない委員構成でした。調査対象とした50人余の患者さんの医学的評価には日本外科学会の全面協力を得ました。

事故調査報告書は、長年にわたって続発していた早期死亡例が見直されてきた要因として「(担当医らが)脆弱かつ孤立した陣容で、連日深夜におよぶ過酷な勤務環境の中、手術や術後管理にあっていた。人員確保や指導體制、手術適応を検討する体制などが不十分なまま高難度の外科治療が導入されていた。術前に患者の自己決定権を尊重した十分な説明や熟慮期間は確保できておらず、インフォームド・コンセントは不十分な内容であり、患者本位の医療とは言い難い状況が生じていた。また、医療安全管理部門に報告すべきことは何か、何らかの懸念が生じた際には何をなすべきか、死亡例が続発したときにはどのような検証を行うべきかが、曖昧にされたまま、医師達は、多忙な日常診療に追われ、病状悪化時の説明や、診療録への記載も不十分となっていた。そのような状況を長期間許していた旧第二外科

の管理体制にも問題があった」と指摘、それら全てを教訓とした具体的な再発防止策を提言しています。

6人の調査委員の思いは「これは群馬大学だけではなく全国の大病院が共通に抱えている患者安全上の問題点であり『再発防止への提言』を我が事として全国の多くの医療者・市民が受け止めてほしい」ということです。それがどれだけ伝わっているのかを世に問う今回のシンポジウムで、全国から400人を超える参加者を得たことと、現場の医療者から生の報告をお聞きすることができたことは大きな収穫となりました。実施後のアンケートでも「報告書の背景を詳しく知ることができた」「あの出来事を再認識することができた」という意見をいただき、主催者一同、苦勞の甲斐があったと胸を撫で下ろしました。

シンポジウムの内容はこちらのウェブサイトから<https://kuma2300.wixsite.com/website> 見ることができます。また今年度中にはシンポジウムの記録集も作成する予定です。



シンポジウムの様子

やんばるの森：沖縄における地域共生

・精神文化・環境保全の役割と再生研究会

研究責任者 等々力 英美

2020年度に新発足した表記の研究会の第1回目を、2021年3月30日(火)12:00-16:10、琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター与那フィールド講義室で開いた(参加者4名)。昼食を摂りながら研究会の責任者の等々力から研究会の意図・内容・目的について説明を行った。本研究会は、生存科学研究所自





主研究助成「森・その地域社会、生活文化、精神世界における役割の再生的研究会(研究会責任者 藤原成一氏)」の成果を受けて、継続的発展した研究会である。沖縄本島の日本唯一の亜熱帯樹林帯である「やんばる(山原)の森」を対象としている。「やんばるの森」は日本の森の中でも、きわめて特徴的な特徴を持ち、区域内には天然記念物に指定されているノグチゲラや、ヤンバルクイナなどの貴重種や、琉球猪が生息している。近年、奄美大島と共に世界文化遺産への登録準備が行われている地帯でもある。本研究会の主旨は、沖縄と日本の森に対する地域社会、生活慣行、精神文化との関係性から両者の共通性、異質性を比較検討することにより、森との共生を喪失した現代人の生き方と精神性について改めて森の意義を考察する。そして、森の持つ機能を現代社会において再生する方策を検討することを目的とする。このような背景を基に、文明的、生態学的、社会経済的、公衆衛生学的観点から追及し、共通の問題意識を持つ研究者と共同で検討を行う。

2020年4-12月の間は、沖縄において感染状況が全国でも最悪の事態となり、沖縄県独自の緊急事態宣言の発令や、大学における入構禁止や出張禁止により対外的活動と継続は困難な状況であった。事態は根本的な解決に至っておらず、沖縄の島嶼環境の外部からのリスクに対する脆弱性が、コロナ感染症においても顕著に生じている。

本研究会はフィールドでの実施が特徴であり、やんばるの森において直接メンバーが参加をして検分を行うことは必須であると考えている。今回は、コロナ感染のリスクも考え、参加者を沖縄在住のメンバーのみとして、何とか年度内に1回目研究会を実施した。

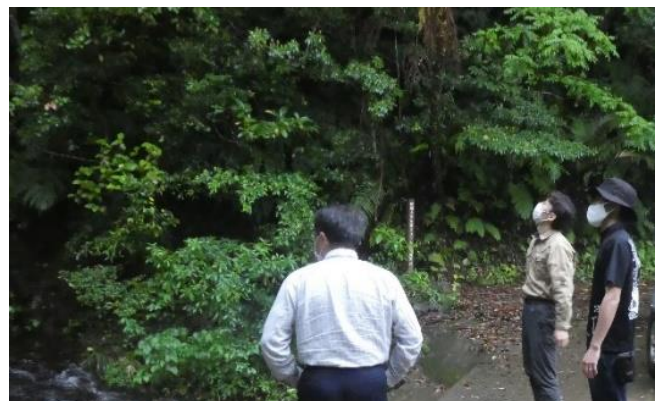
第1回目の研究会は高嶋敦史氏(琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター)に「やんばるの森の保全と利活用にむけて」という演題でご講演をお願いした。高嶋敦史氏は森林計画学を専門とされ、農学部与那フィールド(旧与那演習林)にて、沖縄の亜熱帯林の構造や特徴、森林資源の持続的有効活用について研究をされている。講演の内容は、やんばるの森の特徴について話をされた。やんばるの森は亜熱帯の森であり、温暖で湿潤な環境にあり、樹相は常緑照葉樹である。近年、生物多様性の高さや固有の生態系を育むことが評価され「やんばる国立公園」に指定され、世界自然遺産の候補地にも推薦されている。ご自身の研究結果を交

えながら、やんばるの森の現状について、話された。林齢が75年以上(1929年以前)さかのぼる林齢分布を有する地域は照首山、与那覇岳を一带とする地域のみであり、やんばるの森の大部分は、人手が入っており、人為の影響が少ない林は保護が必要である。一方、人手の入った領域では過去の人為の影響評価と野生動物に配慮した研究が必要である。まとめとして、やんばるの森の今後の方向性として、世界的にも貴重であり、その特徴を解明し適切な利用法を提案することで、教育や情報発信を通じて地域への還元とモデルケースの構築を目指し、持続可能な利用と保全の両立が今後の課題であると話された。お話についてメンバーから活発な質疑応答があったが、個人的にはやんばるの森の現状は、日本の森の99%が人の手が加えられているという現状から考え、共通した課題が重なり合うように思われた。



高嶋敦史氏による講演の様子

講演の後、高嶋敦史氏による与那フィールドの森林学レクチャーをしていただいた。与那フィールドは、那覇空港から車で2時間以上を要する。雨となり、車からの見学となったが、途中、溪流において森林の特徴や形成についてお話を頂いた。うりずんの季節であるやんばるの森の新緑の気配を感じる貴重な体験であった。



与那フィールドの森林学レクチャーの様子

コロナ禍の中で開催した第1回目の研究会であったが、今回はコロナ感染症も終息し、本土メンバーにも、安心してご参加いただけることを願っている。

## 2021年度 事業計画

### I. 事業方針

当研究所は、人類のより健全な生存の形態ならびに機能に関する総合的、実践的研究をとおして生存科学の確立と発展を目的とする。そのため総合人間科学としての生存科学は、縦割りの学問ではなく、哲学、倫理学、法学、社会学、経済学、生命科学、環境科学、医学等の諸科学の視点をも併せた、健康科学の立場から総合的な、生存モデルの確立を図ってきた。また、人類の健康な生存秩序を確保するため、生存科学に関する研究および普及啓発のための事業を推進し、公益に資することを願うものである。

2021(令和3)年度の事業計画については、これまでの取組み、理念を踏まえ、助成規模を維持し、当研究所らしい研究支援、自主研究事業、助成研究事業を中心として、人間のライフサイクルをとおしての総合的な健康投資(バイオ・インシュアランス)モデルの確立と、そのための医学・生命科学の革新・推進に取り組む。また、研究の成果や方法などをインパクトある形で社会に発信・普及させるとともに、社会貢献に努める。

### II. 事業運営について

当研究所の組織の形態に基づき、各事業等の進捗状況、運営状況についての動向を常に確認し、相互に連携しつつ、当研究所の理念である「生存の理法」を確立するとともに、社会貢献活動への取組みを推進していく。

自主研究においては年度途中で研究責任者とヒアリングを行い、事業の適切な実施に向け、助言、評価を行う。研究成果については、シンポジウム、市民公開講座、学術誌「生存科学」を通じ、研究成果の公表に努める。

また、新型コロナウイルス感染症の収束状況を勘案しながら、自主研究事業、助成研究事業の研究責任者、申請者等に当研究所の事業計画、研究費不正使用・不正受給および研究活動の不正行為防止、研究倫理等の研究活動方針を周知するなどの機会を企画し、研究者間の交流会を含め実施する。

当研究所の活動状況および今後の予定についてホームページの充実活用、個人情報に配慮しながら賛

助会員のメーリングリストを活用し、より一層の普及活動を行う。

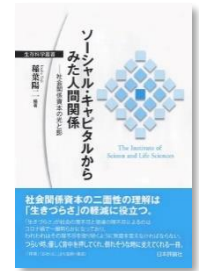
事業内容の詳細については、[公益財団法人生存科学研究所のホームページ](#)に掲載いたします。

## 【生存科学叢書】(日本評論社) 新刊

### 『ソーシャル・キャピタルからみた人間関係 —社会関係資本の光と影』

稲葉陽二 編著

本書のテーマは社会関係資本の光と影である。光と影の切り替えは、規範と信頼が影響している。両者は長期的には教育により形成され、格差によって歪められる。我々は様々な社会関係資本の中にいるが、社会関係資本は常に光と影の両面があり、なかなか自分の思い通りにいかない。しかし、だからといってそれを全部個人で背負い込むことはない。なぜなら、責任のかなりの部分は、社会の理不尽、現場の理不尽に起因することは、社会関係資本を分析してみれば明らかだからだ。



2021年3月25日発行 ISBN 978-4-535-58757-1

本体価格 2,600円

## 研究会等日報

- 3月2日(火) 常務理事会開催
- 3月13日(土) 患者安全への提言シンポジウム
- 3月15日(月) 医療・福祉・教育におけるサービス利用者側のモラル意識と葛藤の実験研究会
- 3月24日(水) 理事会開催
- 3月27日(土) 第4回臨床倫理セミナー
- 3月29日(月) アドバンスケアプランニングの理論からわが国の患者主体の医療を再考する研究会
- 3月30日(火) やんばるの森：沖縄における地域共生・精神文化・環境保全の役割と再生の研究会
- 4月16日(金) 資本主義の教養学講演会
- 5月10日(月) 健康価値創造研究会
- 5月13日(木) 介護現場をIT技術で効率化するための調査・研究
- 5月14日(金) 第1回みらいエンパワメントカフェ